

- 問1 4世紀から6世紀にかけて朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、漢字や儒教、仏教のほか、機織り、土木、金属加工といった大陸の進んだ技術を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 遣隋使 2. 防人 3. 渡来人 4. 御家人
- 問2 航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 前方後円墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 八角墳
- 問3 5世紀ごろ、大和政権（ヤマト王権）の支配が関東地方や九州地方まで及んでいたことを示す歴史資料があります。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に、その名が刻まれていた人物として正しいものを選びなさい。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
1. 聖徳太子 2. 中大兄皇子 3. 卑弥呼 4. ワカタケル大王
- 問4 5世紀ごろに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、このような大規模な墳墓が築かれた歴史的な背景として最も適切な説明はどれか。 (2020年 三重県公立入試 類似)
1. 各地域の小国が、他国からの侵略を防ぐための軍事的な要塞として築いたため。
2. ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。
3. 仏教の伝来とともに、死者を弔うために巨大な寺院を建てる習慣が広まったため。
4. 大陸から伝わった稲作の技術を普及させるために、神を祀る祭祀場を各地に作ったため。
- 問5 古墳時代の中期ごろ、朝鮮半島から伝えられた技術によってつくられるようになった、高温の窯で焼かれた硬質の灰色の土器を何といいいますか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 縄文土器 2. 須恵器 3. 弥生土器 4. 土師器
- 問6 埼玉県の稲荷山古墳から「大王」という称号が刻まれた鉄剣が出土した事実は、当時のヤマト政権の支配状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 高知県公立入試 類似)
1. 律令に基づいた中央集権国家が完成し、全国に役人が派遣されていたこと
2. 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと
3. 関東地方の豪族が、中国の皇帝から日本全体の支配権を認められていたこと
4. 仏教の布教活動を通じて、全国の豪族が精神的に統一されていたこと
- 問7 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2024年 鳥取県公立入試 類似)
1. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
2. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
3. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。
- 問8 古墳時代において、近畿地方から始まったとされる前方後円墳が、後に徳島県や香川県など近畿以外の地域でも築かれるようになりました。この「前方後円墳」が普及した主な要因として、当時の政治体制の仕組みから説明したものとして適切なものはどれですか。 (2023年 愛知県公立入試 類似)
1. 班田収授法によって、全国の農民が等しく古墳を築く権利を認められたため
2. 大和政権が全国に国司を派遣し、地方の文化をすべて近畿のものに統一する政策をとったため
3. 地方の豪族が大和政権に対抗するために、あえて近畿とは異なる独自の形式の古墳を築いたため
4. 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため
- 問9 4世紀ごろ、近畿地方の有力な豪族たちが中心となって組織した大和政権において、各地の豪族を従えていた最高権力者の称号は、当時何と呼ばれていましたか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 執権 2. 天皇 3. 将軍 4. 大王（おおきみ）
- 問10 埼玉県にある稲荷山古墳からは、表面に文字が刻まれた金錯銘鉄剣が出土しました。この鉄剣に刻まれている「ワカタケル大王」という人物は、当時の中国の歴史書に記されている「倭の五王」のうちの誰を指すとされていますか。 (2017年 大阪府公立入試 類似)
1. 武（ぶ） 2. 済（せい） 3. 興（こう） 4. 珍（ちん）
- 問11 4世紀から5世紀にかけて、朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、漢字や儒教、さらには須恵器の製作技術や鉄器の製造といった高度な文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
1. 部民 2. 遣唐使 3. 防人 4. 渡来人
- 問12 古墳時代の東アジアにおける対外関係と文化の流入について、その背景と内容を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
1. この時期の日本は大陸から完全に孤立しており、大陸の文化が流入し始めたのは平安時代以降である。
2. 倭の王権は朝鮮半島の諸国や中国の王朝と交流し、馬具などの実用的な技術や高度な工芸品を取り入れていた。
3. 中国大陸の南朝とのみ交流し、朝鮮半島の高句麗や新羅とは敵対関係にあったため、半島由来の文物は存在しない。
4. 大陸との交流は小規模な民間貿易に限られており、国家間の正式な外交や技術導入は行われていなかった。
- 問13 400年頃に倭王が中国へ使いを送っていた記録がある時代から、平城京へと遷都されるまでの期間にかけて、日本列島では大陸との交流が盛んに行われました。この時期の文化や技術の伝来について述べた文として、正しいものを選択してください。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
1. 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。
2. 大陸から最新の農業技術が伝わり、脱穀のための千歯扱きが全国に普及した。
3. 大陸との交流を通じて、源氏物語や枕草子に代表される国風文化が開いた。
4. 中国から大量の銅銭が流入したことで、須恵器に代わって貨幣経済が急速に発達した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 渡来人	4世紀から6世紀にかけて、朝鮮半島の戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは渡来人と呼ばれ、大陸の高度な技術や文化を日本へもたらしました。彼らが伝えた漢字は、後の公文書作成の基礎となり、仏教の伝来は日本の文化や政治のあり方に大きな影響を与えました。
問2	答え 1 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。
問3	答え 4 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した文字が刻まれた鉄剣・鉄刀には、大和政権の「ワカタケル大王」という名が記されていました。同一人物の名が刻まれた遺物が関東と九州の双方で見つかったことは、5世紀後半には大和政権の支配力が日本列島の広範囲に及んでいたことを証明する重要な根拠となっています。
問4	答え 2 ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。	大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。
問5	答え 2 須恵器	須恵器は、古墳時代に朝鮮半島から渡来した技術者によって伝えられました。従来の日本で見られた野焼きの土器とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を用いることで1000度以上の高温で焼き上げることが可能となり、硬くて水を通しにくい性質を持っています。
問6	答え 2 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと	埼玉県の稲荷山古墳から「大王」の名が記された鉄剣が見つかったことや、熊本県の江翁山古墳からも同様の銘文を持つ鉄刀が見つかったことは、ヤマト政権の政治的な影響力が九州から関東までの広い範囲に及んでいたことを証明する重要な資料となっています。これは、各地の有力な豪族がヤマト政権の支配下に組み込まれていった過程を物語っています。
問7	答え 2 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問8	答え 4 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓造ったため	前方後円墳の広まりは、大和政権を中心とした政治的な秩序が形成されていたことを裏付けています。地方の豪族は大和政権から認められることで自らの支配権を正当化し、その象徴として大和政権の王と同じ形式の古墳を築きました。班田収授法や国司の派遣は、後の律令時代の制度であり、古墳時代の大和政権による統治体制とは異なります。
問9	答え 4 大王（おおきみ）	古墳時代の大和政権（ヤマト王権）において、近畿地方を中心とした支配を広げた最高権力者は「大王」と呼ばれました。この称号は、7世紀後半ごろから「天皇」という言葉が定着するまで、中国の王朝との外交や国内の統治において用いられました。将軍や執権は武家政権の役職であり、時代の異なる用語です。
問10	答え 1 武（ぶ）	稲荷山古墳から出土した鉄剣に記された「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」は、中国の歴史書『宋書』倭国伝に登場する倭王「武」と同一人物であると考えられています。武は、日本の記紀に登場する雄略天皇にあたるとされています。
問11	答え 4 渡来人	朝鮮半島における戦乱や政治的変動を背景に、日本列島へ移り住んだ人々を指します。彼らがもたらした漢字は記録手段として、儒教は政治理念として、また須恵器や鉄器の製作技術は人々の生活や軍事力を向上させる大きな力となりました。ヤマト王権はこれらの人々を組織に組み込むことで、国家の基盤を固めていきました。
問12	答え 2 倭の王権は朝鮮半島の諸国や中国の王朝と交流し、馬具などの実用的な技術や高度な工芸品を取り入れていた。	古墳時代の日本（倭）は、朝鮮半島の高句麗・百済・新羅・加耶、そして中国の諸王朝と政治的・経済的な結びつきを強めていました。この交流を通じて、大陸の進んだ技術や文化が日本列島へもたらされました。具体的には、乗馬の風習とともに伝えられた「馬具」や、高度な鑄造技術による「銅製水瓶」などが各地の有力者の古墳に副葬されており、これらは当時の対外関係の重要性を物語る重要な資料となっています。
問13	答え 1 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。	古墳時代の5世紀前後から、朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ「渡来人」は、当時の日本に存在しなかった高度な技術や文化を伝えました。これには、須恵器の製作技術のほか、機織り・金属工芸、さらには漢字や儒教、そして後の飛鳥文化の基盤となる仏教などが含まれます。選択肢にある「国風文化」は平安時代中期、「千歯扱き」は江戸時代の特色であり、この時期の出来事とは一致しません。